## 1. 校務DX計画

. 仅仍以间						
	現状分析・課題	解決策・想定スケジュール				
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
学校における 業務のデジタル化	保護者との欠席・遅刻・早退連絡をすべての学校で完全デジタル化している。児童生徒への連絡をクラウドサービスを用いた配信ですべての学校が半分以上デジタル化している。	デジタル化 の事例収集、 活用方法検 討				
学校設置者における 業務のデジタル化	教育に関わる公文書のデジタル化に関する規程を定めていない。	校務事務の在り方を検討			新ワークフローで運用(市町村)	
					県の新システムの 新ワークフローで	
次世代の校務デジタル 化に向けた環境整備	ネットワーク統合と汎用のクラウド ツールの活用を前提とした、パブリッククラウド上で運用できる次世代型校 務支援システムの具体的な導入時期を 設定している。	県の新システムへの移行の検討・設計			県の新システム 導入・運用	
生成AIの校務での活用	一部の教職員(半分未満)が生成AIを 校務で活用している学校の割合は、3 割程度である。	活用方法の 情報発信 ※国のパイ ロット校事業 の実証結果 等を含む				
クラウド環境を活用 した校務DXの推進	教職員が校務用の端末を校外において クラウドベースで使用できる環境を整 えているが、活用割合は7割程度であ る。	次期ネットワークの	D在り方検討	次期ネットワーク設計	ネットワークの最	適化・運用
		次期ネットワーク権 教員用端末の検討		次期教員用端末の配置・運用		
Fax・押印の原則廃止、 ペーパーレス化、不必 要な手入力作業の一掃	Faxを使用していない学校が8割、保護者・外部とのやりとりで押印・署名がない学校はなく、職員会議等の資料の完全なペーパーレス化を実施している学校が5割である。	事例収集と解決策	の検討	活用方法の情報発信		

2. 期待される効果 校務で利用する各種システムの活用により校務の効率化が進み、教育データを活用した児童生徒への指導や支援が充実する。 ①統合型校務支援システムなど、校務で利用する各種システムの活用により、校務が効率化され、教員の校務事務が最適化している。 ②教員は、校務データや学習データ等の効率的・効果的な活用により、個々の児童生徒にきめ細かな指導や支援を行っている。